水辺の鳥図鑑

中鷺（チュウサギ）　コウノトリ目サギ科

（学名:Egretta intermedia）

■ 撮影者:犬鳴川流域文化研究会:中村氏
■ 撮影地:犬鳴川流域

ダイサギとコサギの中間の大きさからチュウサギの名がある。全長約68cmで全体が白、足は全体が黒く、眼先が黄色。日本には夏鳥として4月下から5月にかけて渡来し、水田や河川の湿地、干潟で昆虫、クモ類、魚類、両生類などを菜餌します。水に入ることもありますが、湿地の草地で餌を探すことが多い。他のサギ類と共にコロニーを作り繁殖しますが、1970年代以降減少傾向にあります。九州南部では少数が越冬しますが、多くは東南アジアへ渡り越冬します。

7月27日の当協会通常総会に於いて、河川愛護絵画コンクール入賞者及び河川功労者の表彰を行いました。絵画コンクール入賞者は本誌掲載のとおり、参加校は以下のとおりです。なお、参加校へは、サッカーボール等を贈らせていただきます。

● 福岡市立	西長住小学校	● 田川市立	猪位金小学校	● 苅田町立	苅田小学校	● みやこ町立	豊津小学校
● 柳川市立	矢ヶ部小学校	● 〃	金川小学校	● 〃	馬場小学校	● 〃	節丸小学校
● 〃	蒲池小学校	● 香春町立	採銅所小学校	● 〃	片島小学校	● 〃	祓郷小学校
● みやま市立	竹海小学校	● 赤村立	赤小学校	● みやこ町立	黒田小学校	● 〃	犀川小学校
● 直方市立	新入小学校	● 行橋市立	行橋北小学校	● 〃	久保小学校	● 〃	柳瀬小学校
● 〃	直方東小学校	● 苅田町立	与原小学校	● 〃	諫山小学校		

表紙の説明

二丈渓谷

一帯は背振雷山県立自然公園の中を流れる加茂川が、深い山々の中に挟まれてできた渓谷で、二丈岳の西側、加茂川の上流約3km辺りに二丈渓谷が続きます。二丈渓谷の周囲にはカシや杉などの林があり、絶好のハイキングコースとなっています。夏場は水遊びで訪れる人たちでにぎわいます。

協会からのお知らせ

◎県外河川事業現地研修
10/22～23・・・新潟県

◎九州地方治水大会
10/28・・・・・・・宮崎県

◎治水事業促進全国大会
11/26・・・・・・・東京都

◎災害普及事業促進全国大会
12/上旬予定・・・東京都

編集後記

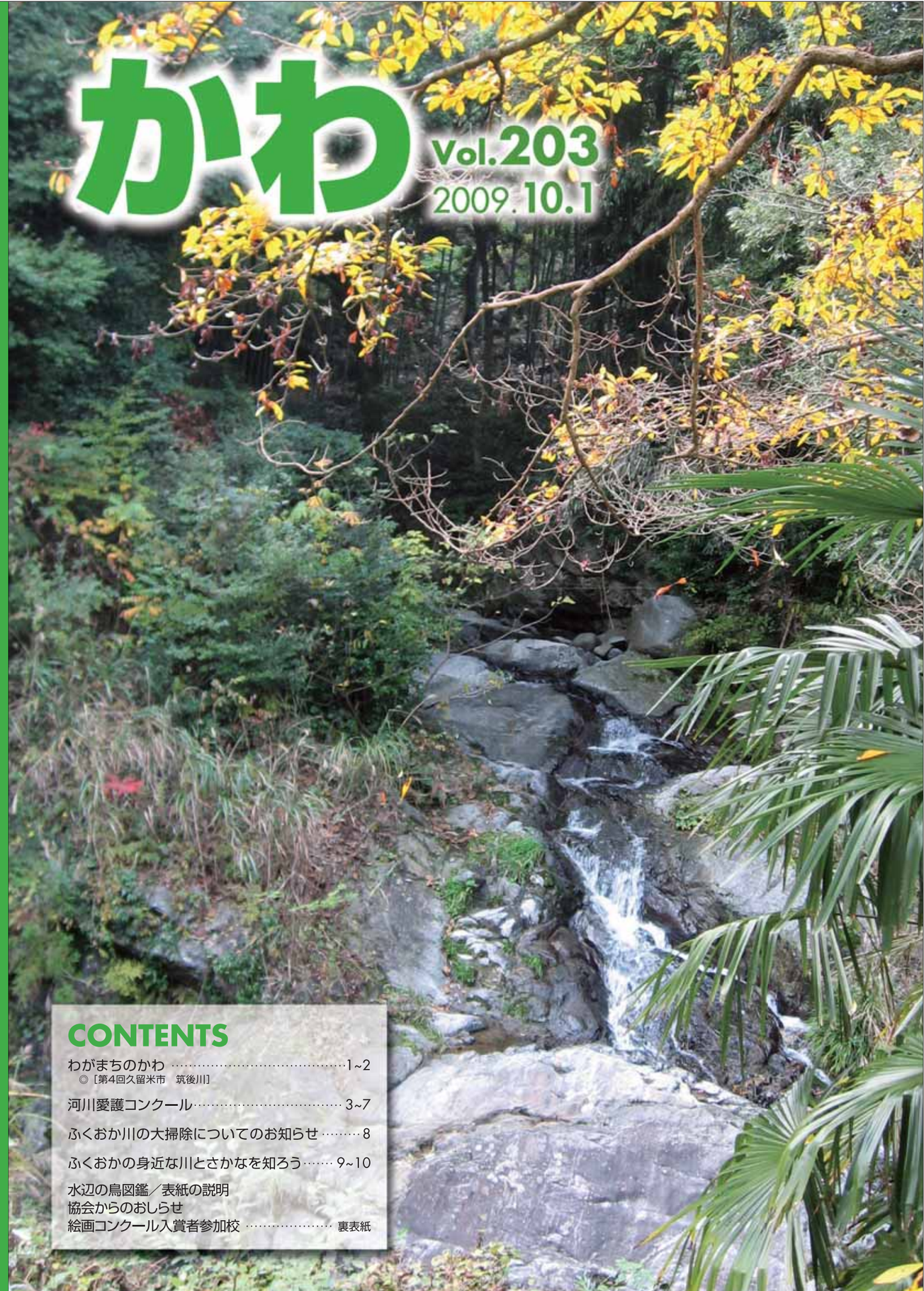
新編集委員として本号が2回目となりました。遠藤防災事務係長、香川主任技師、中園主任技師、三浦主事、猿渡（河川協会事務局長）、若松（河川協会）の編集陣です。

平成21年度河川愛護絵画コンクール入賞者の表彰式が、河川協会通常総会の席上行われました。1年生から6年生までの9名が壇上で嬉しい笑顔の受賞でした。また、河川功労者の表彰も同時に行われました。河川を愛して下さる方々に感謝です。（猿渡）

STAFF
発行・編集／福岡県河川協会
〈福岡県県土整備部河川課内〉
〒812-8577
福岡市博多区東公園7-7
TEL：092-633-2826（直通）
FAX：092-643-3669
企画／㈲森田印刷所

福岡県河川協会ホームページ　http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/

かわ Vol.203 2009.10.1



CONTENTS

わがまちのかわ ……1~2
◎［第4回久留米市　筑後川］
河川愛護コンクール……3~7
ふくおか川の大掃除についてのお知らせ……8
ふくおかの身近な川とさかなを知ろう……9~10
水辺の鳥図鑑／表紙の説明
協会からのおしらせ
絵画コンクール入賞者参加校 …… 裏表紙

わがまちのかわ

第4回 久留米市
筑後川

久留米市は、九州の北部、福岡県南西部に位置し、九州の中心都市である福岡市から約40kmの位置にあります。
県南部の中核都市で、九州自動車道と大分・長崎自動車道のクロスポイントにも近く、国道3号ほか5つの国道が通っていて、交通の要衝となっています。市の北東部から西部にかけて、九州一の大河・筑後川に沿って南側を東西に、耳納山、高良山、明星山などの山々が連なっており、全体的に東南の山麓・丘陵地から、西北から西部にかけて緩やかに傾斜し、筑後川によって形成された広大な沖積平野の平坦地に続いています。

明治22（1889）年4月1日に市制を施行し、今年度で120周年を迎えました。人口約2万4千人で発足した久留米市は、隣接町村との計10回に及ぶ合併、平成17年の過去最大となる広域合併で人口が30万人を超え、平成20年4月に九州の県庁所在地以外で初めてとなる、中核市へ移行し、福岡県南の中核都市として、着実に発展してきました。

ところで、筑後川は筑紫次郎の異名をもつ、日本有数の暴れ川でもありますが、一方で筑後川の豊かな流れは、市域の産業や文化などの発展と密接に関わってきました。

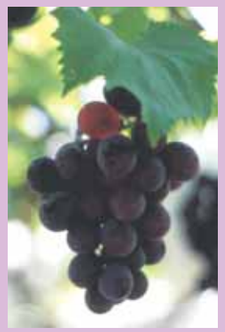
久留米市を東西に貫流する、筑後川。豊かな流れは久留米市の発展に大きく関わっています。

国土交通省
筑後川河川事務所
より提供

春の「つつじマーチ」、夏の「水天宮花火大会」、秋の柳坂曽根の「ハゼ祭り」、そして、冬は日本三大火祭りの「鬼夜」と、流域には四季を通し、様々な催しが開催されています。

青木繁や坂本繁二郎、古賀春江など、久留米の画家や日本の近代絵画が数多く展示されている、「石橋美術館」。

全国の水天宮の総本宮をはじめ、九州の代表的な禅の修行道場として知られる「梅林時」など、いにしえの風景を残す神社や寺院が多く残ります。



ぶどうの王様と呼ばれる「巨峰」も、田主丸町が開植の地です。今から約50年前、全国に先駆けて栽培に成功し、「巨峰狩り」の一大ブームとともに、甘く芳醇な味わいを日本全国に広めました。

筑後川発見館くるめウス

昭和28年の大水害から50年の平成15年にオープンし、大水害の記録を伝えながら、災害から身を守る為の防災、河川愛護意識の啓発を行う河川情報拠点施設として、平常時にはそれらの目的に沿った資料展示や河川に関わる市民団体の活動拠点として利用されています。また災害時には福岡県国民保護法における避難施設（テロ等が発生したときの避難場所）にも指定されています。

所 在 地　久留米市新合川1−1−3
T E L　0942−45−5042
休 館 日　毎週月曜日(月曜が祝日・振替休日の場合は火曜)
　　年 末 年 始(12月29日〜1月3日)
開館時間　9時30分〜17時
入 館 料　無料

くるめウス外観

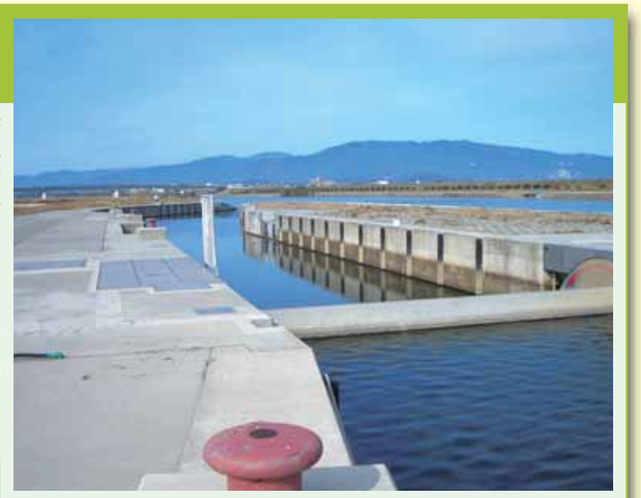
多目的室での活動風景

情報スタジオでの活動風景

くるめ舟通し（小森野閘門※）

かつては舟運が開けていた筑後川ですが、時代と共に衰退し、平成2年の城島の下田の渡しを最後に舟運はその役割を終えました。その後、平成7年阪神淡路大震災時に、道路復旧されるまで船舶での物資輸送が行われ、災害時には緊急輸送路として、舟運の役割が見直されることとなりました。また、久留米市で「久留米地域舟運再生検討委員会」が設立され、筑後川での舟運実施が地域再生計画の一つとして平成16年12月に国に認可され、筑後川小森野床固めの舟通し施設（現:くるめ舟通し）の改修に至り、平常時には遊覧船などの運行に活用されています。

※閘門とは、水面の高さが異なる上流と下流を船が行き来するための設備で、舟が乗るエレベーターの様な役割を果たすものです。



小森野閘門

池町川

池町川は、久留米市街の中心を貫流する一級河川で、昭和40年代に周辺の急速な都市化により水質環境が悪化し、“どぶ川”の様な状態になっていました。

浄化前

昭和43年11月、池町川の浄化のため、沿川住民の方々により“池町川を美しくする会”が発足し、昭和52年に建設省（現:国土交通省）が、河川環境整備事業として、池町川に筑後川から清浄な水を導水する浄化事業が進められ、昭和57年3月に、事業が完成しました。今では沿川に、桜や柳、クロガネモチなどの樹木が植えられ、川には鯉や、小さな魚が群れをなして泳ぐ姿が見られ、地域の憩いと安らぎを与える川として市民に愛されています。現在では、地域住民や有志の方々の協力を得ながら清掃活動を行っています。

現在の池町川と河川清掃の様子

平成21年度
河川愛護絵画コンクール

今年も、河川愛護月間（7月1日から7月31日）行事の実施に当たり、河川愛護意識の高揚を図るために、小学校児童を対象とした河川愛護絵画コンクールの作品募集がありました。「わたしたちと川との関わり」をテーマに、児童が日頃親しんでいる川との関わりや、こうあってほしいなという願いをこめた作品が多く寄せられました。ここでは、特選の3名の作品、1等6名の作品と全入賞者を紹介します。また、来年度（平成22年）の河川愛護ポスターには、特選作品を採用予定です。

特選

中学年
「ぼくたちの遠が川」

直方市立
新入小学校〈3年〉
田島 敏徳くん

ぼくがすんでいる直方市には遠が川がながれています。遠が川にはたくさん生き物がすんでいます。

ぼくは、この川がもっときれいになったら川の中に入って魚やザリガニなどを見つけて楽しく遊びたいと思いました。

これから遠が川が、ゴミがないきれいな川になって大きな魚がいっぱいいて生き物と遊べる川になってほしいと思います。

〈講評〉
まるで自分が今本当に川の中にいるような気持ちにさせてくれる絵です。大きなザリガニや男の子のポーズなど楽しい気持ちを存分に表したり、絵の具の水の加減を工夫し川の中の淡い感じを表したりするなど、豊かな感覚を持った表現ができています。

特選

高学年
「命いきづく川」

みやこ町立柳瀬小学校〈6年〉
佐々木 崇詞くん

ぼくは、川海に釣りや泳ぎに度々出かけます。

先日、ある川に泳ぎに行った時、流れのとても速い場所に水中メガネをして流されないようにがんばってもぐったら、ヤマメのち魚が3匹いました。鮎もいました。その姿がとても美しく、パーマークのあざやかさが印象的でした。ぼくが全身の力をこめてもぐる場所をヤマメは余裕で泳いでいたので、とても驚きました。水族館で何度もみたヤマメとは比べ物にならないほどきれいでした。ヤマメはどの川でも見ることができる魚ではありません。きれいな冷たい水にしか生きていけません。川海に行って、たくさんのごみを必ず目にします。ヤマメの住む川も同じです。また地球温暖化で水温が上しょうするのも心配です。

この絵は、川海を出来る限りきれいにし、魚達が住みやすい環境を作り、ヤマメを放流したい。そして、ずっと昔のようにどの川でもヤマメや鮎と一緒に泳げるようにしたいと願いを込めて、えがきました。

〈講評〉魚をバケツから一気に川に放つ様子が、ダイナミックな構図でいきいきと描かれています。魚の躍動感や勢いのある川の流れ、ワクワクした表情の男の子の顔など、上手に仕上げることができました。魚を放流する喜びなど高学年らしい思いやりの心も見えます。

特選

低学年
「川をきれいにしよう」

みやこ町立柳瀬小学校
〈2年〉
吉武 栞さん

わたしは、川がきれいになってほしいなと思って、この絵をかきました。

わたしはまい日、今川のよこを通って学校に通っています。いつも川を見ていると、水がにごっていたり、ゴミがすててあったりすることがあります。そんな時、わたしは、魚がすみにくいだろうなと思います。

今川にたくさんの魚があつまってほしいから、絵にきれいな色の魚とすきとおった水をかきました。

〈講評〉
橋の上からのぞき込んだ川の中にたくさんの魚が元気よく泳いでいる光景がいきいきと描かれています。一匹一匹の魚や、水の表現など、一生懸命がんばったあとが見えます。自分が魚たちと同じ世界で一体となっているような気持ちが伝わってくる作品です。

平成21年度 河川愛護絵画コンクール

一等

直方市立直方東小学校
〈6年〉
阿蘇品 里実さん

一等

苅田町立片島小学校
〈5年〉
松蔭 勇利くん

一等

みやこ町立祓郷小学校
〈3年〉
五反田 綾里さん

一等

柳川市立矢ヶ部小学校
〈2年〉
江口 優眞くん

一等

柳川市立矢ヶ部小学校
〈4年〉
鶴田 和也くん

一等

柳川市立矢ヶ部小学校
〈1年〉
野口 明輝くん

〈全体講評〉

子どもたちと川との関わりをテーマとしてたくさんの作品が応募されました。入選した作品をはじめ、構図や色遣いなど様々な工夫をした作品が数多くあり好感が持てました。何より素晴らしいと思ったことは、子どもたちがふるさとの川に親しみ、楽しもうとしている様子がひしひしと伝わってきたことです。まさにテーマを的確に表しており、「きれいな川が身近にあってほしい」という子どもたちの強い願いが感じられる作品ばかりでした。子どもたちの作品を通して、河川愛護の取組がますます盛んになることを願っています。

平成21年度 河川愛護絵画コンクール入賞者

特　選

佐々木 崇詞	6年	みやこ町立柳瀬小学校
田島 敏徳	3年	直方市立新入小学校
吉武　栞	2年	みやこ町立柳瀬小学校

一　等

阿蘇品 里実	6年	直方市立直方東小学校
松蔭 勇利	5年	苅田町立片島小学校
鶴田 和也	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
五反田 綾里	3年	みやこ町立祓郷小学校
江口 優眞	2年	柳川市立矢ヶ部小学校
野口 明輝	1年	柳川市立矢ヶ部小学校

二　等

大嶋 茉穂	6年	みやこ町立豊津小学校
竹内　雷	6年	みやこ町立柳瀬小学校
瓜生 佳己	5年	苅田町立片島小学校
富永 明日香	5年	みやこ町立節丸小学校
白川 麻鈴	4年	苅田町立苅田小学校
堀　龍平	4年	苅田町立苅田小学校
中川 弘貴	3年	みやこ町立豊津小学校
三隅 聖矢	3年	みやこ町立諫山小学校
井上 翔英	2年	柳川市立矢ヶ部小学校
中村 なつき	2年	柳川市立蒲池小学校
松尾 あかね	1年	みやこ町立節丸小学校
はせがわ りゅうご	1年	直方市立新入小学校

三　等

上澤 亜美	6年	苅田町立馬場小学校
岡本 有司	6年	苅田町立馬場小学校
今井 公梨	6年	直方市立新入小学校
永原 風花	5年	みやこ町立久保小学校
古賀　央	5年	みやこ町立節丸小学校
井上 茉優	5年	苅田町立片島小学校
奥　翔吾	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
平川 ひかる	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
原口 蓮太郎	4年	苅田町立苅田小学校
吉元　蓮	3年	みやこ町立祓郷小学校
渋田 勇利	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
折田 杏菜	3年	苅田町立与原小学校
星野 ゆうな	2年	柳川市立蒲池小学校
西村 勇輝	2年	柳川市立矢ヶ部小学校
しみず るい	2年	みやこ町立犀川小学校
義経 茉綾	1年	みやこ町立久保小学校
為近　琳	1年	赤村立赤小学校
大場 葉月	1年	赤村立赤小学校

佳　作

竹本 優心	6年	みやこ町立豊津小学校
山本 好輝	6年	みやこ町立豊津小学校
小住 ひかり	6年	苅田町立与原小学校
藏田 裕実子	6年	苅田町立与原小学校
田中 優海	6年	苅田町立与原小学校
西本 すみれ	6年	苅田町立片島小学校
片岡 杏実	6年	直方市立直方東小学校
中嶋 亜実	6年	直方市立新入小学校
市川 直弥	5年	みやこ町立節丸小学校
進　七海	5年	みやこ町立節丸小学校
松川 美空	5年	みやこ町立節丸小学校
田代 瑞季	5年	みやこ町立久保小学校
佐藤 里々香	5年	みやこ町立久保小学校
倉本 和哉	5年	苅田町立片島小学校
中谷 魁人	5年	苅田町立片島小学校
菊原 響子	5年	苅田町立馬場小学校
松田 優里	5年	苅田町立馬場小学校
野村 奈央	5年	田川市立猪位金小学校
石田 祥希	4年	直方市立新入小学校
森田 菜央	4年	直方市立新入小学校
村田　渚	4年	直方市立新入小学校
俵口 楓馬	4年	直方市立新入小学校
別府 あみ	4年	直方市立新入小学校
綿貫 拓真	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
高田　隼	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
岩谷 冬萌	4年	行橋市立行橋北小学校
池上 美菜	4年	みやこ町立豊津小学校
宮武 遼弥	4年	苅田町立片島小学校
西田　陸	3年	みやこ町立祓郷小学校
加来 文子	3年	みやこ町立祓郷小学校
石田 晴也	3年	みやこ町立黒田小学校
村上　舞	3年	みやこ町立久保小学校
有馬　樹	3年	みやこ町立諫山小学校
廣津 功輝	3年	みやこ町立諫山小学校
能美 辰皇	3年	直方市立新入小学校
末岡　葵	3年	直方市立新入小学校
西田 朱理	3年	みやま市立竹海小学校
桑原 朋巳	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
高口　愛	2年	柳川市立矢ヶ部小学校
藤生 祐麻	2年	柳川市立矢ヶ部小学校
池上 すい	2年	柳川市立蒲池小学校
伝 えいいちろう	2年	柳川市立蒲池小学校
中野 佑紀	2年	みやこ町立柳瀬小学校
かつら林 なお	2年	みやこ町立犀川小学校
こが たけひろ	2年	みやこ町立犀川小学校
ふじなみ あやの	2年	みやこ町立犀川小学校
石い あい	2年	みやこ町立犀川小学校
井上　輝	1年	みやこ町立久保小学校
馬場 寛太	1年	みやこ町立久保小学校
今地 咲百合	1年	みやこ町立久保小学校
杉本 栞璃	1年	みやこ町立久保小学校
乗富 大輝	1年	柳川市立矢ヶ部小学校
石河 愛瞳	1年	柳川市立矢ヶ部小学校
柏崎 航平	1年	赤村立赤小学校
木稲　篤	1年	赤村立赤小学校
佐野 乃綾	1年	赤村立赤小学校

TOPICS

よみガエルくん

ふくおか川の大掃除

についてのお知らせ

みんなで守ろう ふるさとの川
ふくおか川の大掃除実施中

「ふくおか川の大掃除」は、平成17年より、毎月10月を実施月間、第4日曜日を統一実施日として福岡県が呼びかけている河川一斉清掃活動です。
河川愛護活動を「知ってもらう、体験してもらう、一体となって行う」ということを活動目的として、県内各地の河川愛護団体を中心に、県・NPO法人・市町村が連携して、一斉清掃活動に取り組んでいます。

事前打合会議

これまでの活動をふまえてより良い活動になるように打合せます。

報告会

活動を通して、気付いたこと等、様々な意見交換が行われます。

当日

よみガエルくん

問い合わせ先 ： 福岡県県土整備部河川課管理係（TEL.092-643-3667）
または 県土整備事務所
ホームページ ： 福岡県県土整備部河川課　http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp

鬼倉徳雄

ふくおかの身近な

川とさかなを知ろう!! No.8

「津屋崎干潟の生物多様性」

昔、カブトガニが博多湾の多くの場所で普通に見られた頃、漁港の堤防の上に転がるカブトガニの死体をよく目にしましたが、当時は漁業者の網を破る厄介者でした。しかし、今は懸命に保全すべき希少な生き物で、日本のカブトガニ（環境省版レッドデータブック、絶滅危惧Ⅰ類）は危機的状況を迎えています。そして、みなさんは福岡都市圏に著名なカブトガニ生息地があることを御存じですか?福岡県曽根干潟、佐賀県伊万里湾などが有名ですが、実は福津市津屋崎干潟も有名な生息地のひとつです。恐らく、日本国内の5本の指に入る貴重な生息地が、津屋崎の入り江内、最干潮時に広がる内湾干潟に見られます。

津屋崎干潟の風景

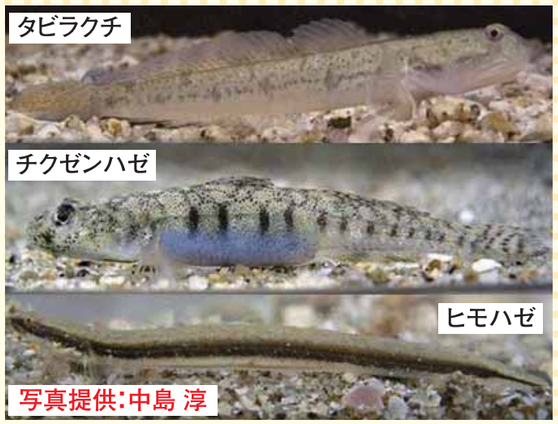
実はこの干潟、福岡都市圏ではあまり姿を見かけなくなった希少な野生生物の宝庫です。カブトガニ以外にも、世界で2000羽しかいないとされるクロツラヘラサギ（絶滅危惧ⅠA類）の飛来地でもありますし、つい先日はコウノトリが数十年ぶりに飛来したことでも話題となりました。干潟に生息する魚たちも、タビラクチ（絶滅危惧ⅠB類）、チクゼンハゼ（絶滅危惧Ⅱ類）、エドハゼ（絶滅危惧Ⅱ類）、マサゴハゼ（絶滅危惧Ⅱ類）、ヒモハゼ（準絶滅危惧）、トビハゼ（準絶滅危惧）などなど。環境省が指定する絶滅危惧種が多く生息し、それらの希少生物が甲殻類、鳥類、魚類といった様々な分類群にわたっていることからも、たいへん貴重な環境が残っていることを理解できるのではないでしょうか。

さて、津屋崎干潟の生き物を知る上で、その成り立ちや歴史的背景を知ることはとても重要です。まず、現在日本に残っている多くの干潟は河口干潟です。この河口干潟は、河川が運搬する砂泥が河口域に堆積して形成されます。しかし、津屋崎干潟の場合大きな河川は流入していません。周囲の水田地帯から農業用水が流入する程度です。それでは、どのようにして干潟が形成されたのでしょうか?それは津屋崎が広大な入り江を持ち、入り江の奥は外海からの波を受けにくく、閉鎖的な環境にあるからです。このような閉鎖的な入り江などに形成される干潟を内湾干潟と呼びます。日本国内に残る閉鎖水域に形成された内湾干潟の中で、流入河川がない干潟は極めて珍しい!日本国内で最も有名な干潟と言えば有明海の干潟ですが、内湾域に広がる干潟ではありますが、九州最大の河川である筑後川をはじめ、嘉瀬川、六角川などが流入しています。流入河川がない内湾干潟という点で、津屋崎干潟は全国的に見ても極めて珍しいと言えるでしょう。

諫早湾の干拓などで知られるように、日本の干潟の多くは人為的な改変を繰り返し受け続けています。最近ニュースで話題となっている泡瀬干潟もまたそのひとつ、そして、身近なところでいえば博多湾の人工島も和白干潟の干拓によるものです。そして、上述した希少な野生生物たちは普通の干潟に普通に生息したはずの生き物たち。全国的に行われてきた干潟の開発の中で、普通だったはずの生き物たちが着々と失われているのです。そして、多くの干潟が失われている今、津屋崎干潟は単に流入河川がない干潟としてだけでなく、希少な野生生物の宝庫としても極めて重要な場所となっているのです。

それでは、津屋崎干潟は人為的改変を受けてこなかったのでしょうか?実は江戸時代、寛文の石堤が作られ、大規模な干拓が行われ、干潟が水田と塩田になりました。恐らく、それによりカブトガニを始め、干潟を主要な生息場とする生き物の生息地は減少したことでしょう。ただ、かつての干拓は今のように大型工作機械などを使いませんので、少しずつ環境が変化したはずです。干潟の生き物たちが環境の変化に対応できる程度の緩やかなスピードで工事が行われたからこそ、現在もなお津屋崎干潟に希少な野生生物が生息しているのです。

津屋崎干潟で江戸時代の干拓によって行われた新田開発は、新しい生物多様性を創出しています。実は、津屋崎干潟の周辺地域の水田地帯には、ニッポンバラタナゴ（絶滅危惧ⅠA類、Vol.201参照）、メダカ（絶滅危惧Ⅱ類）、ツチフキ（絶滅危惧Ⅱ類）といった希少な淡水魚類の生息地となっています。これらの純淡水魚類は、江戸時代の干拓の後この地に入植したと思われます。この干潟には流入河川がありませんので、恐らく他の地域の河川の氾濫などで水系が接続したような時に、これらの淡水魚が流れ着き干拓地内の水田地帯で増えていったのでしょう。そして、少なくとも現在の津屋崎干潟とその周辺地域は、干潟の中に干潟を主要な生息場とする希少な野生生物が、干潟周辺の水田地帯の中に水田・水路を主要な生息場とする希少な野生生物が生息する、福岡都市圏の生物多様性のホットスポットとなっています。そして、干潟の生物と水田の生物が共に生息する環境を創出するきっかけが、江戸時代の寛文の石堤の構築から始まった新田・塩田開発と言えるのではないでしょうか?



津屋崎干潟に生息する希少なハゼの仲間

カブトガニの産卵

さて、現在の津屋崎のカブトガニを取り巻く現状は?つい先日津屋崎干潟でカブトガニの亜成体の大量の死体が見つかりましたが、今のところ原因は不明。ただ、少なくともこの干潟でもカブトガニが危機的状況にあることを示す一例と言えます。地元でカブトガニの長期モニタリングを実践する市民団体の報告によれば、この干潟のカブトガニはここ数年で着実に産卵数を減らし、幼生の個体数も急減しているとのこと。私も大学の臨海実習で、この干潟の調査を年1回行いますが、カブトガニを見かけることはほとんどなくなりました。干潟自体の大幅な人為的改変はここ数年ありませんが、干潟につながる入り江の入口付近では港湾整備事業が行われていますし、干潟内のアオサの異常増殖なども見られます。少しずつ何らかの人為的な環境の改変は続いています。カブトガニの減少とそれらの因果関係は明らかではありませんが、福岡都市圏の生物多様性のホットスポットとして重要な場所であることをみんなが理解し、常に生き物たちとそれらの生息環境に配慮が必要です。そして、九州の核としての産業の発展だけでなく、九州の核として環境保全への取り組みに対しても、我々福岡県民は積極的な姿勢を見せるべきでしょう。最後に、環境保全活動にはみなさんの力が必要です。学識者が行政に訴えるだけでは簡単に物事は進みません。ちなみに、津屋崎干潟のカブトガニ調査を行っている市民団体（つやざき海辺の自然学校）は市民参加型のモニタリング調査を行っており、ボランティア調査員を毎年募っているとのこと。興味がある方はボランティアとして参加されてみてはいかがでしょうか。

鬼倉 徳雄（おにくら のりお）
- ●九州大学大学院農学研究院・助教
- ●日本魚類会自然保護委員会・希少魚類部会委員
- ●日本水環境学会九州支部・評議委員

主な著書／
- ■ 有明海の生きものたち　干潟・河口域の生物多様性（佐藤正典編）
- ■ 干潟の海に生きる魚たち　有明海の豊かさと危機（日本魚類学会自然保護委員会編）